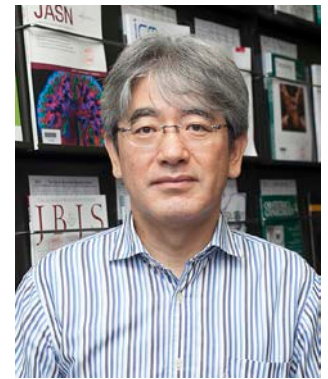


部長就任のご挨拶

総合診療センター長 兼 総合内科主任部長 藤本 卓司

このたび平成 27 年 4 月 1 日付で総合診療センター長および総合内科主任部長を拝命いたしました。昭和 59 年に京都大学を卒業後、2 年間、麻酔科医として京大病院と北野病院に勤務いたしました。その後、市立堺病院において内科のほぼ全領域、感染症を学んだ後、長く総合内科の領域で働いておりました。このたび御縁をいただき、29 年ぶりに北野病院に戻って参りました。総合内科は私を含めまして 7 名全員が新たに赴任し、完全に新しい体制となりました。総合診療センターには救急部門と感染症科も含まれます。救急受け入れから緊急入院までの流れをスムーズにして信頼される救急医療を提供してゆきたいと思います。また感染症診療については総合内科と感染症科で互いに補い合いながら行ってゆく所存です。総合内科は、内科領域の広範囲の疾患を対象として診療を行っております。専門科の充実した北野病院ではありますが、総合内科が力を発揮できる場面は多いと考えています。表にある 1 日の入院症例の疾患リストを挙げました。専門性がきわめて高いごく一部の症例は専門科に委ねますが、多くの疾患について診断確定後も適宜専門科とコミュニケーションをとりながら総合内科が診療しております。大切にしているものとして病歴・身体診察を重視したベッドサイド教育と感染症診療があります。とくに研修医に対しては視・触・聴・打診などの診察手技を実際の症例で繰り返し教育しています。グラム染色は医師自ら塗抹、染色、鏡検を行って、日々の診療に活かしています。皆様に信頼していただける総合診療センター、総合内科を築くべく奮闘いたします。よろしくご指導のほどお願い申し上げます。



総合内科 入院症例 (2015/X/Y)

諸領域

大動脈炎症候群
肺胞出血
虚血性腸炎
ACTH単独欠損症
クラッシュ症候群

未診断

子宮腺筋症, 発熱
発熱, 汎血球減少症

感染症

急性腎盂腎炎
"
"
気腫性膀胱炎
肺炎
腸腰筋膿瘍
憩室炎
化膿性関節炎
感染性心内膜炎

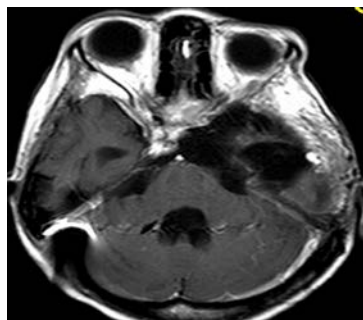
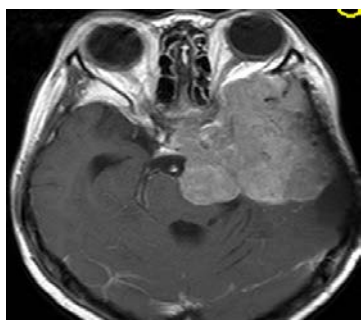


医師自ら行うグラム染色

脳腫瘍・脳血管領域

脳神経外科 主任部長 岩崎 孝一

北野病院・脳神経外科は本邦屈指の伝統を誇る老舗であり、50年以上にわたり中心的基幹施設としての使命を果たしてまいりました。脳・脊髄神経疾患全般に対し高水準の治療がご提供できますが、特に注力しているのは脳腫瘍と脳血管障害の集学的治療です。脳腫瘍の中では最も手術が困難とされる頭蓋底腫瘍に対する広範囲頭蓋底手術や、グリオーマに対する手術・放射線・化学療法などに大学病院を凌駕する程の治療実績があります。脳腫瘍の手術を安全に行うために、最新の脳幹・脳神経モニター、ナビゲーションシステム、神経内視鏡などの手術支援機器等も完備しています。また脳血管障害の治療に関しては、既に重装備の脳卒中ケアユニット（SCU）の増床・拡充が完了しており、日本脳卒中学会専門医7名、脳血管内治療専門医3名を含む脳神経センター医師23名に加え脳卒中認定看護師も配属になり、府内でも屈指の充実した環境で365日24時間体制の脳卒中救急に邁進しています。ハード、ソフト全ての面において、日頃より北野病院にご高配を頂いている先生方のニーズに充分答えることができる体制が整ったと自負しておりますので、今後とも宜しくお願い申し上げます。



巨大頭蓋底腫瘍の手術例（左：術前、右：術後）



北野病院・脳卒中ケアユニット

「LED 光刺激装置」及び「神経機能検査装置

MEE1200シリーズ「ニューロマスター」を導入

脳神経外科 副部長 西田 南海子



LED 光刺激装置



神経機能検査装置

平成27年4月に「LED光刺激装置」及び「神経機能検査装置MEE1200シリーズニューロマスター」を追加導入しました。従来、顔面痙攣症・三叉神経痛の加療を中心に機能的手術の件数が多く、脳神経機能温存の為のモニタリングをルーチンに行っていた参りましたが、脳腫瘍・脊椎手術に対応したマルチチャンネル記録の為、平成23年機器更新時に8チャンネル型神経機能検査装置を導入しました。更に視神経近傍の手術件数増加に対応して「LED光刺激装置」と2台目の16チャンネル型検査装置を導入しました。今後も安全性・満足度の高い手術の提供に努めてまいります。

放射線関連機器の導入計画

放射線科主任部長 奥村 亮介
部長 高木 雄久

北野病院は平成13年秋口の移転と新棟開院より、かぞえ15歳となりました。これもひとえに皆様の暖かいご支援のたまものと感謝申し上げます。

さて、放射線科では、医療の進歩に伴い、さらなる前進とレベルアップを目指し、皆様によりよい医療を提供すべく、放射線科関連機器の更新、導入を計画しております。診断機器においては、まず地味ではありますが、診療の根幹となる単純X線装置(据え付けの物も移動用のものもあります)やX線透視装置(バリウム検査や内視鏡検査、各種の治療機器の体内装着に使用します)の更新を近々行います。デジタル化、低被曝化(患者様もスタッフも)が鍵となります。CTは現在より、高速で低被曝のものを数年以内に導入します。MRIはより高機能、多機能のものに置き換え、新たな機能情報の獲得をめざしていきます。

これら機器は、これまで、またこれからも、どんどん進歩していく治療手技や手術手技に、より適合したものであることが必要です。各診療科や各チーム医療スタッフとの連携した導入計画となっていきます。核医学機器は核医学診断製剤のトレンドに沿った機器に置き換えていきます。脳、心臓、癌が診断ターゲットになります。これらの画像データの扱いは、より洗練された物となります。扱いやすく、評価も容易ではあるが、保全性やセキュリティーも高度であることが必要になります。一病院だけでなく、地域および国民全体の健康増進に役立つものとしていくという観点が必要です。また、逆に多くの画像データを当院に集めることができれば、当院医師の画像診断スキルを多くの施設や地域で生かすことも可能です。

放射線治療の分野でも、近年の技術革新に伴い、治療の高精度化が進んでいます。視触診で治療範囲を決めていた時代から、CT、MRIなどの解剖画像のみならず生体内の代謝を画像化した機能画像も融合させ、より適切な治療を行えるようになってきています。また体内での臓器の動き(呼吸性移動など)に対応した動体追跡照射なども実用化され、精度もセンチメートルの時代からサブミリの時代へと移りつつあります。北野病院でもこのような新しい放射線治療に対応できる放射線治療機器を導入し、当院で最先端の治療を提供できる体制を整えていく予定です。放射線治療を通じて、地域医療に貢献できればと考えておりますので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。

以上、放射線診断機器においても、放射線治療機器においても、可能な限り、より有用な、より斬新なものを導入し、北野病院の医療に役立てていきます。また、患者さんのための、医療機関間のネットワーク構築などにも協力してまいります。今後とも、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

病院からのお知らせ

■医療事故調査制度について

医療安全管理室

2015年10月1日から医療法が改正され『医療事故調査制度』が施行されます。この制度は、医療事故により予期しない死亡または死産があった場合に院内事故調査を行い、管理者の判断により医療事故調査・支援センターへ報告することで、原因究明とそれによる再発防止に繋げることを目的としています。



当院では、医療安全管理の取り組みとして、院内報告システムによるインシデント、アクシデント事例収集や分析を行うとともに、事例検討委員会を設置し安全対策の実施に努めております。また、職員に対しても定期的なリスクマネジメント研修会開催や医療安全管理室ニュースの配信など、安全教育の向上に向けて様々な取り組みを行っています。

これからも患者様はもとより、患者様を御紹介いただく先生方にも、安心、安全で確実な医療を提供できるよう取り組んで参りたいと思います。

医師の人事情報（副部長以上）

入職（平成27年6・9月）

氏名	職位	専門分野
大竹 洋介(おおたけ ようすけ)	呼吸器センター(外科担当) 副部長	呼吸器外科一般
三木 義仁(みき よしひと)	脳神経外科 副部長	脳卒中・神経内視鏡・ 神経外傷・脳腫瘍

退職（平成27年4・5・8月）

氏名	職位
田中 まゆみ(たなか まゆみ)	総合内科 主任部長
庄司 剛(しょうじ つよし)	呼吸器センター(外科担当) 副部長
浜本 芳之(はまもと よしゆき)	糖尿病内分泌センター 副部長
池田 直廉(いけだ なおかど)	脳神経外科 副部長